



さらなる共生社会の実現をめざして

三重県知事 鈴木英敬

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、心新たに清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、伊勢志摩サミットの開催地としての国際的な知名度が向上した三重の地で、第27回全国菓子大博覧会「お伊勢さん菓子博2017」が開催され、本県の魅力を全国の多くの方々に知っていただくことができました。これらのイベントが成功裏に終わり、多くの成果につなげることができましたのも、県民の皆様のご協力の賜物であり、改めてお礼申し上げます。

さて、本県では、障がいの有無によって分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し

合いながら共生する社会の実現をめざして、総合的かつ計画的に障がい者施策を展開しています。現行の「みえ障がい者共生社会づくりプラン」が今年3月をもって終期を迎えることから、障害者差別解消法や三重県手話言語条例の施行など、障がい者を取り巻く環境の変化をふまえ、現在、次期プランの策定を進めているところです。今後とも、障がい者の権利擁護や、就労の促進、障がい者スポーツの推進、地域生活の支援など、さまざまな障がい者施策を推進していきますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年の皆様のご多幸とご活躍を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



組織力の強化を目標に活動展開！

公益社団法人 三重県障害者団体連合会 会長 世古佳清

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は、年明け早々の1月12日及び13日に桑名市において「三重県障がい者芸術文化祭」を開催いたしました。参加作品の応募はこれまでにないほど盛況であり、展示作品は400点、ステージ発表は20を超える発表がありました。このほか、特別支援学校からも多数の作品の展示や発表がありました。

ご協力をいただきました福祉団体や福祉施設の皆さん、また、お忙しい中駆けつけていただいたご来賓など多数の方々のご協力により、成功裡に開催ができましたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、障害者福祉を巡る施策は年々充実強化され、障害者総合支援法や障害者差別解消法が施行され、障害者福祉の枠組みが示されてきました。また、昨年は「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の閣議決定や「第5期障害福祉計画等にかかる基

本方針の見直し」についての告示がなされました。

一方、三重県においても「みえ障がい者共生社会づくりプラン」の改訂作業が進められているほか、昨年5月末に県議会において「障害者差別解消条例策定調査特別委員会」が発足し、障害を理由とする差別の解消や障害者に対する合理的配慮の提供の具体化が検討されています。このように様々な施策が国や自治体を中心に進められている中であっても、わたしたち障がい者は、「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」をスローガンに活動してきており、自分たちの権利擁護の活動を展開していく必要があります。私たち障がい者が自分達の権利を守るためには強い組織力を維持し、その声を行政や社会に認めていただくことが欠かせません。そのために、今年は障害者組織の充実強化を最大の目標に活動を展開したいと考えています。

皆さん方も、それぞれ自分たちの組織で活発な活動を展開していただき、更なる組織強化に一層のご尽力をお願いします。



新春のお慶びを申し上げます



三重県知的障害者育成会

障害福祉計画等策定の中で

平成29年度中に全国で障害者総合支援法に基づく「第5期障害福祉計画」「第1期障害児福祉計画」および障害者基本法に基づく「障害者計画」が作られていきます。

その中で、第4期障害福祉計画中に最低でも福祉圏域に1ヶ所は設置と言われた『地域生活支援拠点』の整備が大幅に遅れています。そこで、厚生労働省は第5期障害福祉計画内での設置との通達を出しました。

そもそも『地域生活支援拠点』とは何ぞやとの戸惑いがあると考えます。

面的整備と拠点整備という図式が示され、それぞれの地域の特徴を考えて不足する機能を加えていくとの説明で、7県9市の地域生活支援拠点等整備推進モデル事業を全国で実施しています。

内容については、地域生活支援拠点等整備推進モデル事業一覧で検索してご覧ください。

拠点整備に面的整備を加えて実施しているところや緊急コールセンターを核とした相談体制をとっているところなどがあります。

三重県内でどのような形がいいかの参考にするよりもそれぞれの地域で何があり、何が不足するかを検証して隙間を埋める努力を作るときだけではなく、繰り返していくことが大切だと考えます。

障害福祉予算が膨らむ以上に支援が必要な高齢者の増加を見越し、入所支援の利用者を地域移行させた後にその人数分定員減をすると親亡き後の受け皿がなくなることから考え出されたのが「地域生活支援拠点」です。

また、福祉人材難で児童だ、高齢者だ、障害者だと垣根を設けては円滑な運営ができないということで『包括支援』という言葉も出てきています。さらに「我が事・丸ごと」も提案され、自助・公助・共助が言われ、戦後世代が絡んだ厳しい時代の到来です。

しっかりと議論を行い、第5期障害福祉計画終了時には、第6期障害福祉計画の策定へ反映させられるだけの実証を持っていただきたいと願っています。

最後に、お知らせです。

本会では、平成30年10月27日(土)～28日(日)に志摩市において『手をつなぐ育成会東海北陸大会』を開催するために実行委員会で内容を検討中です。障害者総合支援法の見直しと報酬改定が同時に行われる年に開催します。また、一つの試みも企

画しています。

内容は、来年度5月の東海北陸手をつなぐ育成会協議会理事会で正式決定となります。

時代の動きを見つめながら、その動きに適した内容にしたいと考えてまいりますので、関心をお持ちの方は、是非ご参加ください。

理事長 高鶴かほる

事務局 ☎ 059-225-3930 FAX 059-225-3935

E-mail:oyanokai@eos.ocn.ne.jp

HP <http://www.mie-ikuseikai.sakura.ne.jp>

三重県精神保健福祉会

<差別の根源を知ることから>

私は今から23年前、「息子さんは精神分裂病です」と医師から宣告された時のことを鮮明に覚えています。

その時から、この病名の裏にある「何をするかわからない(怖い)」「一生なおらない」「めったにかからない」偏見・誤解が今なお、5人の家族を苦しめています。

この精神分裂病という「人格否定の病名」こそが「精神障がい者差別の根源」ではないかと思いつづけています。

三重県内でも統合失調症であるというだけで、「医療機関の受診を断られる」「ツアー旅行から排除される」「アパートの入居を断られる」「GHの建設に反対される」「不審者として通報される」などが毎年のように報告されています。

「精神分裂病」という病名は1900年から2002年まで100年以上も使用されてきました。この病名は即、人格否定「何するかわからん(怖い)」につながります。

2002年の改名のときも、「精神分裂病100年の総括」はなされていません。

そのために、今も統合失調症=精神分裂病の「十字架」を背負わねばならないのです。

多くの皆さんの中に統合失調症=「何するかわからない」という偏見・差別を早期に解消しなければなりません。

私にとっての、差別解消を目指す「運動(活動)」の当面の目標は

- 1、100年以上にわたって、人格を否定する「精神分裂病」名を放置して、差別されつづけていることを放置してきた国の最高責任者が、当事者と家族に謝罪すること
- 2、人格を否定する「精神分裂病」と名付けたまま放置してきた日本精神神経学会が当事者・家族に

謝罪すること

私は、この2つの目標達成を目指して、どのような活動をすれば道が開けるのか？皆さんと一緒に考えて、残りの人生を差別解消に少しでも貢献できる生き方をしたいと思っています。

NPO法人 三重県精神保健福祉会（さんかれん）

理事長 山本 武之

事務局 ☎・FAX 059-271-5808

E-mail:sankaren@mint.or.jp



三重県聴覚障害者協会

今年度当協会が行った活動事業は次のとおりで順調に実施できました。5月21日（日）「第70回三重県聴覚障害者福祉大会（四日市市）」、7月9日（日）「三重県手話通訳問題研究討論集会（東員町）」、8月25日（金）聴覚障害児向け「聴覚障害児サマースクール」、11月12日（日）文化の秋「三重ろう者文化祭（津市）」、11月19～21日（日～火）「協会創立70周年記念旅行（長野・群馬）」、関連団体との合同企画も12月16日（土）県サ連合同「クリスマス交流会」、12月17日（日）県サ連合同「2017年思い出を語ろう会」、1月14日（日）三重通研合同「親睦会」。これらの事業を通じて参加者相互のつながりを一層強めることができました。

当協会の会員数は2016年度の308名より2名増の310名、これはうれしいニュースであります。しかし高齢化社会の中で協会の中でも高齢者支援、また次世代の育成も必要になっていますので、これからも進めていきます。2018年度も会員と全日本ろう連の機関紙購読者と季刊MIMI購読者の拡大運動で様々な課題を取り出し、減少に歯止めをかけたいと考えています。

4月1日に施行された「三重県手話言語条例」に合わせた動きとしては、手話や聴覚障害者に対する理解を深めていただくための手話講座を「県・市町職員向け」県内各庁舎20ヵ所、「県民向け」県内各地域10ヵ所で開催を実施続行中です。それを機に全ての人々がお互いを尊重し、分かり合い、手話を使って安心して暮らすことができ、心豊かに共生することができたらと思っています。

2021年全国障害者スポーツ大会が三重県で開催されるにあたり、当協会は情報支援ボランティアの養成準備を始めています。共に力を合わせて頑張ってください。

新年度から新しい県理事が就任します。創立70周年を機に、いま聴覚障害者の福祉向上に貢献し、

さらなる運動の進展を目的として「権利」「手話言語」「生活」「仲間」の4つの柱を運動方針として、皆さまの「暮らしやすい社会」により一層の努力をしてお応えしていく所存でございます。今後ともご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

事務局 ☎ 059-229-8540 FAX 059-223-4330

E-mail:deaf.mie@viola.ocn.ne.jp

HP <http://deafmie.cocolog-nifty.com/blog/>

三重県視覚障害者協会

皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

さて、視覚障害者が日常生活を営んでいくためには、様々な社会的バリアーの解消が必要です。その中でも最も優先されるべきものは、安全・安心な移動環境の整備です。

たとえば、同行援護制度については、視覚障害者の外出のための有益な制度ですが、当事者が必要とする日時に利用できないことが多くあり、従事者の量的整備が必要です。

外出時の安全を確保するために、音響信号機、誘導ブロック、エスコートゾーンなどを計画的に整備することも強く求められています。

さらには、大きく報道されているホーム上の安全対策を強化する。平成29年度は、国、県、市の支援による5駅（近鉄霞ヶ浦駅、近鉄阿倉川駅、近鉄鈴鹿駅、近鉄津駅、近鉄松阪駅）、及び鉄道事業者単独による3駅（近鉄四日市駅、近鉄久居駅、近鉄名張駅）において、内方線等の整備を行うと聞いております。今後も、駅を利用する際に、だれもが安全で自由に移動できるよう、駅のバリアフリー化を進めてほしいと思います。ホーム上の安全対策の強化には、県民の皆さんに積極的に声かけ等手助けをしていただきたいとも思います。

視覚障害者の安全な外出を確保する手段としての「タクシー料金助成制度」を県内すべての市町に制度化されるとともに、利用できる区域の制限を緩和することも求められています。

視覚障害者の安全・安心な移動において、県民の皆さんにとって、視覚障害者への接し方、サポートの仕方などがわからないことがあれば、三重県視覚障害者協会、三重県視覚障害者支援センターにお気軽にお問い合わせください。

また、視覚障害者の皆さんで安心・安全な移動に心配な方は、三重県視覚障害者協会、三重県視覚障害者支援センターで、白杖を使った歩行訓練など

も実施していますので、ご利用いただきたいと思
います。

皆様方には、引き続き、ご支援をいただきますよ
うお願い申し上げます。

会長 内田 順朗

事務局 ☎ 059-228-3463 FAX 059-228-8425

Email:mieten@zc.ztv.ne.jp

HP <http://www.zc.ztv.ne.jp/mieten/>

三重喉友会

当会は、昭和30年に創立され、今年で63年目にな
ります。現在の会員数は95名です。

種々の疾患のため喉頭や食道の摘出手術を受け、
発声機能を失った方々のための患者会です。

その方々が、発声教室で訓練をして日常会話が出
来るようになり、社会や職場に早く復帰されることを
目的に活動しています。

このほか、会員同志の健康相談や親睦の場として
も活発な活動をしています。

このような患者会は全国にあり、NPO法人日本喉
摘者団体連合会に加盟して、各団体が互いに情報を
交換しながら協力しています。

◆発声教室

毎月県内各地区において、下記の病院で開催して
います。

・北勢地区

市立四日市病院耳鼻科・第一水曜日 13時～15時

・中勢地区

三重大学附属病院耳鼻科・第三木曜日 10時～12時

・南勢地区

伊勢赤十字病院耳鼻科・第二木曜日 10時～12時

・東紀州地区（隔月偶数月）

尾鷲総合病院耳鼻科・第四木曜日

10時30分～12時

・会員の方は自由にお近くの教室に参加して下さい。

◆研修会

・発声指導員養成のための研修会が、毎年3日間行
われ、一般会員の方も参加できます。

・県外から発声指導のために講師を招き、集中的な
訓練により成果が上がる研修会も行っています。

◆総会(研修会)

毎年春に三重大学附属病院で開催しています。

発声訓練の一環として「発声コンクール」を行います。

◆一泊研修旅行

先輩から、手術後の体験や会員の悩みや相談を受
け、親睦を深めています。

(4)

会員による発声コンクール（カラオケ大会）を行
います。

◆出前授業

三重県教育委員会からの要請で県内の小・中学
校の生徒を対象に三重大学病院の教授とともにがん
体験者としての講演をしています。

事務局 ☎・FAX 059-261-5257（塚本明雄）

日本オストミー協会三重県支部

日頃はオストメイトの福祉向上にご支援・ご協
力を戴き有難うございます。

本年度に計画した行事は順調に進捗しており、平
成29年5月20日に支部総会を開催しました。その後
の「春の研修会」では伊勢赤十字病院の皮膚・排
泄ケア認定看護師である伊藤京子氏により「剥離剤
の種類と使用方法、災害対策について」お話をい
ただきました。また、「秋の研修会」は10月14日に
開催し、「高齢者のストーマケアについて」と題して
市立四日市病院の皮膚・排泄ケア認定看護師・副
看護師長である平尾紀子氏からお話を聞きました。

一泊研修会は、鳥羽市のホテルで2回実施し、7
月9～10日は「温浴施設での入浴・災害時対応」を
テーマに、11月19～20日はストーマ用品セフティ
ネット連絡会の「災害時対応の手引き」に基づき参
加者がそれぞれの経験や知見をもとに話し合いました。

今後は、2月24日（土）13時30分よりアスト津4
階で「新入会員研修・懇談会」を予定しております。
ぜひご参加ください。

オストメイトは、ご家族のご協力があって始めて快
適なストーマ生活が過ごせます。一泊研修会等の行
事にご家族でのご参加を歓迎いたします。

☆注 (1)ストーマ…腹部に造設した人工肛門・膀胱の
ことを言います。

(2)オストメイト…ストーマを造設した人のことを
言います。



会 長 ☎ 059-346-2589（溝川紳一）

事務局 ☎ 059-226-5201（在間敏明）

三重県ことばを育む会

三重県ことばを育む会では、毎年ことばやきこえ
の発達に不安があるお子さんの保護者を対象とした
無料相談会を実施しております。この相談会では、
県内の通級教室で児童の指導にあたっておられる先
生方が相談役となり、保護者の方々の不安や悩みに
対して指導やアドバイスをさせていただいております。

平成29年度は11月12日に実施しましたところ、主に未就園児の保護者から多数のお申し込みをいただきました。子どものことばやきこえの発達に不安をお持ちの保護者の方が専門分野の先生方からアドバイスいただける貴重な機会であるこの相談会を今後も実施していきたいと思えます。

【お問い合わせ】090-8678-3259（平松）

三重心臓を守る会

今年度は、昨年度に引き続き、行事の開催と共に相談会の充実を図りました。

支部の行事は、三重大学附属病院小児科病棟武藤昭江師長の講演会、療育キャンプ、救急法講習会、クリスマス会を開催し、それぞれの行事の後に相談会を設けました。また、鈴鹿、いなべ、伊勢、津、各地域でランチ&相談会を開催しました。各地域の相談会では、不安を話し、受け止めてもらう事や、経験を聴く事で、先天性心臓病のお子さんを授かった両親という同じ立場で、共感が出来、育児、手術、教育などの情報も得られます。

その他、療育キャンプ、クリスマス会では、こども同士の交流と親同士の親睦も深めることが出来ます。

スマホが普及し、会わずとも、情報が得られ、交流出来る社会になりつつあるからこそ各行事や相談会は、実際に会って交流する貴重な場になっています。

平成30年度は、行事や相談会と共に、三重心臓を守る会のホームページも充実させる予定です。

先天性心臓病のお子さんをお持ちの方は、一人で悩まないでご連絡下さい。

事務局 ☎ 059-255-4661（西村信子）

三重県重症心身障害児(者)を守る会

昨年10月、本会が所属する全国重症心身障害児(者)を守る会・全国大会が金沢で開催されました。

開催地決定の審議では三重県も立候補していましたが直前に北陸新幹線が開通したインパクトは大きく、あっさりと金沢に決まってしまいました。

ただ延べ千二百人の参加者と四つの分科会、六～八百人の懇親会場と宿泊を一か所で開催出来る場所があったのか。正直なところホッとした部分もあります。

来年度の話になりますが、今年の11月には東海北陸ブロック大会を本県が担当します。

こちらは二百人規模で、すでに実行委員会を立ち上げ準備を進め、日程と場所が決まりました。

今年度の行事では一泊保養所が残っています。こ

れは重症児者の皆さんが家族と一緒に温泉地に集まっていた頂き、夜は食事と楽しいひと時を周囲の目を気にすることなく過ごしていただくという企画です。本会はこの事業を昭和52年から続けて参りました。

最近では予算の削減に合い、年2回を県の委託事業として実施しています。それでも足りずに会費を充当したり、土日開催を日月開催にしたりして続けています。

参加の皆さんにはこの場を借り、ご不便をおかけしていることへのお詫びを申し上げます。

今回は2月24日（土）～25日（日）熊野市入鹿温泉ホテル清流荘、3月18日（日）～19日（月）名張市青蓮寺レイクホテルに決まりました。沢山のご参加をお待ち申し上げます。

守る会の活動や一泊保養所に関心を待たれた保護者の皆様方はご一報いただければ幸いです。



会長 ☎ 0567-95-0321（松尾孝之）

携帯 090-7048-1556

三重県肢体不自由児者父母の会連合会

日頃から肢体不自由児者の福祉向上にご支援いただいている関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今年もよろしく願い致します。

障害福祉を取り巻く環境は、行政と現場の感覚に乖離があり、肢体不自由児者にとっては制度（市町決定）・介護施設・人材不足等に地域格差が多くみられます。

今年4月から障害者総合支援法の三年目になり、改正がされます。国の方針に基づき、施設入所から地域移行をめざしていますが、グループホーム等の整備が未だ不十分です。重度障害者が利用できるグループホーム設置促進と障害当事者、親の高齢化による在宅生活から地域生活へ、住まいの場の整備「親亡き後、安心して暮らせる住み家」の確保が急務です。また、地域でのショートステイ（短期入所）施設が不足しています。要因としてショートステイを始めたくても、新規の設置認可が少なく（予算不足）、人材確保の観点でも報酬が安く将来的に見通しが立ちません。施設から地域への移行を促進するためにも、身近な福祉型短期入所サービスに対する設置認可及び報酬費の増額が必要です。

これらの課題を共有し解決するための一助になる事を目的に、今年6月2日～3日、東海北陸肢体不自由児者父母の会連合会三重大会を伊勢志摩ロイヤルホテルで開催することになりました。東海北陸7県の肢体不自由児者と保護者、福祉関係者が一堂

に会します。県下の会員はじめ関係者のご参加をお願いいたします。

私たちは、『住み慣れた地域で、共生社会の実現！～使えるサービスの実現、充実をめざして～』をテーマに全国肢体不自由児者父母の会連合会の傘下で活動しています。今年も、保護者一人一人が自覚をもって、さらなる活動を展開していきます。関係各位のご支援を宜しくお願い致します。

事務局：四日市市南垂坂町810-47（鈴木）

☎・FAX 059-333-0005

三重県脊髄損傷者協会

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本中が大きな関心を持っていると思います。我々障害者もパラリンピックを機会に障害者スポーツの発展を大いに期待しています。パラリンピックに向けて障害者スポーツ協会・各競技団体が活発に動き、経済的には国や都道府県、企業が支援をしていただく状況になりました。そして多くの障害者が挑戦しています。

また三重県では2021年に国民体育大会・全国障害者スポーツ大会が開催され、より一層スポーツに取り組む状況となっています。

パラリンピックを契機にバリアフリーを推進していくために国を上げて行動をしていますが、東京だけではなく日本中のバリアフリーが推進されるように我々も協力をしていきます。

脊髄損傷者の多くは車いすを使用して日常生活を送っています。社会での障害は移動障害と言われ、特に階段・通路・公共交通機関のバリアフリー化に注力してきました。

また同じ障害を持つ者同士によるピアカウンセリングの活動をしています。

事務局 ☎ 059-386-9733（松田靖利）

三重県知的障害者福祉協会

平素は、障害者社会参加促進事業の活動を通じ、当協会の活動等にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

とりわけ、3年後に開催される全国障がい者スポーツ大会「三重とこわか大会」に向けてはスポーツ文化の振興事業の役割が益々重要になってくると考えています。

さて、昨年度の社会福祉法人改革に続いて本年4月にはトリプル改定と言われている医療報酬、介護報酬そして障害福祉サービス報酬がそれぞれ改定されることとなっております。

特に障害福祉サービスの報酬改定に関しては障がいのある方々の社会参加や自立の有り様、また、そのための支援やサービスの在り方、そしてサービスの供給主体である事業所の今後の運営などを大きく左右するに重要な課題を山積しながら大詰めの議論が進められております。

現時点では、改定率+0.47%が示されておりますが、これもサービスの自然増などを考えると決して満足できる改定率とは言えません。

より複雑化した報酬体系の中でサービスによっては大幅な単価の切り下げ等も検討されております。

当協会といたしましては、支援を必要としている方々の負担を小さくし、誰もが安心して利用できるサービスの仕組みと安定した支援が供給できるよう適切な報酬単価の改定を求め、本部や関係団体と連携しながら様々な活動を進めております。残された期間は三ヶ月ほどですが、報酬単価改正に向けて全力を挙げて取り組んで行く所存です。

つきましては、年頭にあたり、社会参加推進センターの関係団体の皆様には、当協会の活動にご理解いただき、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。真の共生社会の実現を目指して！

会長 近藤 忠彦

事務局 ☎ 059-268-1115（まもり苑・本弘）

三重県身体障害者総合福祉センター

三重県身体障害者総合福祉センターは県の指定管理により「障害福祉サービス事業所」と「身体障害者福祉センターA型」を運営しています。

障害福祉サービス事業所としては、脳血管障がいや脊髄損傷などで肢体不自由や高次脳機能障がいのある方に対して自立に向けた支援を実施し、これまで多くの方々が単身生活や就労などの地域生活に移行されています。具体的には、障害者総合支援法による各種リハビリテーションを行う施設として、①自立訓練（機能訓練）②自立訓練（生活訓練）③就労移行支援④生活介護⑤施設入所支援⑥短期入所の6つの事業を展開しています。また、相談窓口として高次脳機能障がいの方への相談支援を行っています。

身体障害者福祉センターA型としては、各種相談の実施、介護保険・医療保険によるリハビリテーションの実施、障がい者のスポーツの推進などを行っています。この内、障がい者スポーツについては、三重県障がい者スポーツ大会（陸上・フライングディスク・ボウリング・卓球・バレーボール（精神障がいの部））の実施、全国障害者スポーツ大会への選

手団派遣などを行っています。また、平成33年開催の全国障害者スポーツ大会三重大会に向けて選手育成、団体競技の充実、指導員・審判員養成などを目指しています。団体競技ではこれまでに聴覚障がい者のバレーボール男女、知的障がい者のソフトボール、フットベースボール、バスケットボール男女、バレーボール男女のチームを結成しました。現在も各競技の選手を募集しています。未経験の方も歓迎していますので、スポーツを始めたい方、仲間作りをしたい方は、ぜひお問い合わせください。

今年も、当センターの取り組みについてご支援、ご協力をたまわりますようよろしくお願いいたします。

事務局：三重県身体障害者総合福祉センター
☎ 059-231-0155 FAX 059-231-0356
HP <http://www.mie-reha.jp/>

三重県立特別支援学校長会

皆様におかれましては、平成30年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、特別支援教育の推進に何かとご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、国では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとした平成28年度の中央教育審議会答申を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校の新学習指導要領とともに、新特別支援学校幼稚部教育要領、新特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が公示されました。幼稚部は本年4月、小学部は平成32年4月、中学部は平成33年4月から全面実施となります。また、高等部は本年中に公示される予定となっています。

本県では、三重県特別支援教育推進基本計画に基づく特別支援学校の整備として、平成29年4月、県立特別支援学校東紀州くろしお学園（本校）が新校舎で学習を開始するとともに、県立子ども心身発達医療センターの開設に伴い、医療・福祉と連携する県立かがやき特別支援学校が新たに開校しました。今年度は、平成30年度の県立松阪あゆみ特別支援学校の開校に向けて整備が進められているところです。

三重県立特別支援学校長会としましては、県教育委員会と一体となって、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善や各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立、児童生徒の調和的な発達への支援や家庭・地域との連携・協働等に取り組んでまいります。

また、特別支援学校がセンター的機能を発揮し、特別支援教育コーディネーター等を小中学校等へ派遣して、教育相談や指導・支援に係る研修会等を実

施し、児童生徒のよき学びにつなげることができるよう、支援の充実を図っていく所存です。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：稲葉特別支援学校(井坂誠一)
☎ 059-252-1221

独立行政法人高齢・障害・求職者 雇用支援機構三重支部

○三重障害者職業センター

- ①障害のある方に対しては、ハローワークと協力し、就職への準備を整えるための相談・職業準備支援、職場適応のためのジョブコーチ支援、うつ病等で休職している方の職場復帰のためのリワーク支援など各種支援を行っています。
- ②事業主の方に対しては、障害者雇用の進め方や雇用管理の相談・研修を行っています。
- ③関係機関の方に対しては、就労支援に関する助言や研修などを行っています。

【お問い合わせ】

津市島崎町327-1（ハローワーク津 3階）
☎ 059-224-4726 FAX 059-224-4707

○高齢・障害者業務課

- ①事業主の方に対しては、障害者雇用納付金制度に基づく納付金申告・調整金支給、申請書等の受付や相談を行っています。
- ②社会一般に障害者に対する理解と認識を深め、その雇用の促進を図るための啓発事業として三重県障害者技能競技大会（アビリンピックみえ）の開催等を行っています。

※平成29年12月2日（土）に三重県身体障害者総合福祉センターにおいて開催しました。多くの方にご参加・ご来場いただき、感謝申し上げます。平成30年度の日時等決定しましたら、ホームページ等でお知らせいたします。

【お問い合わせ】

津市島崎町327-1（ハローワーク津 2階）
☎ 059-213-9255 FAX 059-213-9270

三重県ボランティア連絡協議会

皆様におかれましては、良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、当協議会の活動にご理解、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

今年度も盛大に開催されました「三重県障がい者

芸術文化祭」には昨年以上の作品出展数、会場内ではステージの発表者と観客が思いを共有しての盛り上がりの中で大変な感動をいただいた文化祭でした。

三重県ボランティア連絡協議会におきましては、「福祉、環境、防災」3部会で構成しております。年々、ボランティアに課せられる新たな課題等も多くなってきました。できるかぎり敏速に対応できるよう、北から南までネットワークを強化、社会的孤立をなくす、障がいの有無に関係なく安心して地域で暮らすことを目標に共に手をとりあって活動をしていきたいと考えます。2018年総合研修会は紀北町で開催させていただき、開催地の社協さんには過分なるご協力をいただきまして、ボランティアの皆さんと100数名で「学びと交流」の時間をもちました。今後も多様な担い手となれる様にと考えております。今後共

ろしく願います。

事務局：三重県ボランティアセンター（川瀬みち代）

☎ 059-229-6634

三重ガイドヘルパー連絡協議会

ガイドヘルパースキルアップ研修会 in 菟野町

平成29年9月30日（土）に、三重ガイドヘルパー連絡協議会会員等23名と視覚障害者7名がペアになり、パラミタミュージアムの学芸員の説明を聞き、館内の触れても良い作品を視覚障害者が手で触れながら体験して、その後、意見交換・交流をしました。

【お問い合わせ】

公益社団法人三重県障害者団体連合会

☎ 059-232-6803 FAX 059-231-7182

平成29年度 三重県障がい者青年交流事業

三重県障がい者ふれあい交流会を7月9日（日）～10日（月）サンペルラ志摩（志摩市磯部町）にて開催しました。

県内各地から障害者144名の参加があり、1日目は三重県農林水産部次長 永瀆 享さんに「真珠について」の講演、次に三重県理学療法士会 杉浦 徹さんと荒井友章さんにより「転倒防止、肩こり防止等の健康維持について」は体の衰えを防ぐ健康体操を、次に補助犬普及協会 理事長 木村靖子さんの講演。2日目は鳥羽市教育委員会生涯学習課豊田祥三さんに

「九鬼水軍の歴史について」郷土の講演、そして三重県雇用経済部 国際戦略課 課長 小倉康彦さんによる「伊勢志摩サミットから1年」についての講演がありました。

また、10月14日（土）には松阪市飯南産業文化センターに於いて、三重県障がい者青年活性化対策事業を開催し、県内各地から障害者195名の参加があり、「第34回東海テレビひまわり賞」受賞者の名張市身体障害者互助会 山中伯弥さんの体験発表、次に障害者によるカラオケの集いを行いました。

平成30年 三重県交通安全県民運動

◆年間スローガン

思いやる やさしい心で 走る三重

～気持ち良い 運転マナーの ^{うま} 美し国～

◆年間重点目標

- ①高齢者の交通事故防止
- ②子どもの交通事故防止
- ③横断歩道における歩行者優先の徹底
- ④すべての座席のシートベルト・チャイルドシートの正しい着用の徹底
- ⑤飲酒運転の根絶
- ⑥自転車の安全利用の推進
- ⑦夕暮れ時の早めのライト点灯の推進
- ⑧反射材の普及促進
- ⑨違法駐車 of 追放
- ⑩その他、特に定めて取り組む事項

◆各季運動等

- 【春の全国交通安全運動】 4月6日（金）～4月15日（日）
【夏の交通安全県民運動】 7月11日（水）～7月20日（金）
【秋の全国交通安全運動】 9月21日（金）～9月30日（日）

【年末の交通安全県民運動】 12月1日（土）～12月10日（月）

【夕暮れ時、ちょっと早めのライト・オン運動】

10月1日（月）～12月31日（月）

◆日を定めて行う運動

【交通死亡事故死ゼロを目指す日】

全国交通安全運動期間中に実施予定

【交通安全の日】 毎月11日

【高齢者の交通安全の日（S・Sデー）】 毎月21日

【自転車安全対策強化日（S・Bデー）】 毎月第一月曜日

【飲酒運転0をめざす推進運動の日】 毎年12月1日



ご協力をお願い

日頃は温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当事業所は、社会福祉法人日本身体障害者団体連合会協賛のもと、全国的組織で福祉事業を実施しています。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

日本身体障害者団体連合会事業所
（お問い合わせ）電話（フリーダイヤル）

0120-263-323

平成29年度三重県障がい者芸術文化祭 受賞者一覧

部門	賞	氏名	作品名	所属等又は市町名
絵画	三重県知事賞	神廣美佐紀	七色の魔法と天使のおくりもの	サニープレイス
	三重県議会議長賞	中川 結治	海坊主の墓	NPO法人 工房ゆう
	桑名市長賞	山上富士恵	海が見える景色	ワークショップみらい
	実行委員会賞	立木 英晴	かお	垂坂山ブルーミングハウス
	奨励賞	水谷 康子	風の粧い	桑名市在宅障害者デイサービス事業運営委員会
	奨励賞	太田 入江	きんにく	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	奨励賞	秦 将輝	鳥になろう	三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園
写真	三重県知事賞	田中 淳	夕陽に映えて	大台町障害者福祉会
	三重県議会議長賞	宮原 一彰	カワセミ	大紀町障害者福祉会
	桑名市長賞	三宅あやを	つむじ風	松阪市身体障害者福祉協会
	実行委員会賞	中世古廣太郎	上げ馬神事	松阪市身体障害者福祉協会
	奨励賞	森 和夫	みんな笑顔	志摩市障がい者福祉会
書道	三重県知事賞	阪口 久代	早春	伊勢市社会福祉協議会伊勢支所身体障害者デイサービス
	三重県議会議長賞	川村よし子	俳句集 掛け軸	松阪市身体障害者福祉協会
	桑名市長賞	柘植 秀明	瑞気満梅花	千姫
	実行委員会賞	有村 拓真	拓真字典	伊勢亀鈴会 八野就労支援センター
	奨励賞	中野 元洋	心閑茶味清	三重県自閉症協会
	奨励賞	吉輪 賢司	ゆめつなぐ	居宅介護事業所かしの木ひろば
版画	三重県議会議長賞	寺岡 洋子	無題	津長谷山学園
陶芸	三重県知事賞	世古 卓也	トラ	社会福祉法人ベテスタこいしろの里
	三重県議会議長賞	永田 実	カップ	社会福祉法人ベテスタこいしろの里
	桑名市長賞	江藤 規彦	いのり	八野生活介護センター
	実行委員会賞	大町 進	チャレンジ	八野生活介護センター
	奨励賞	吉田 拓馬	ceramic works	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
手芸	三重県知事賞	福井とし子	舞妓さん	NPO法人 工房ゆう
	三重県議会議長賞	加藤 節子	ロングベスト	桑名市身体障害者福祉協会
	桑名市長賞	川邊 紘子	世界に一つの着心地を楽しんでね	NPO法人 工房ゆう
	実行委員会賞	蛭川 澄子	さをり織り	工房いなば 生活介護
	奨励賞	梅山まき代	刺し子	障害者支援施設 くわのみ
工芸	三重県知事賞	稲垣 優也	かいじゅうじてん	垂坂山ブルーミングハウス
	三重県議会議長賞	藤本 治市	凜とした静寂	鈴鹿市
	桑名市長賞	鈴木 宏哉	犬の家族	デリカ工房 くわのみ
	実行委員会賞	菅 詩織	まふそら タワー	三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園
	奨励賞	小林 勝	はこ	いなば園GH
貼り絵 デザイン 等	三重県知事賞	前川 智美	タコミの日常	菰野聖十字の家 生活介護事業
	三重県議会議長賞	大山 浩史	孔雀鳳凰図	伊勢市社会福祉協議会フリースペースこだま2
	桑名市長賞	山口 太一	しあわせのかみふぶき	サニープレイス
	実行委員会賞	瀬上 明里	桃太郎	主人公tsumugu～風の子スクエア～
	奨励賞	水谷 一美	海の上	かすみの里
サブタイトル賞	森 繁生	～触れてみて芸術文化の明日の夢～	桑名市身体障害者福祉協会	

受賞おめでとうございます

◆厚生労働大臣表彰（自立更生等）

やま なかのり みつ
山中 伯弥 名張市 肢体

54歳にて利き腕の右手親指と手首を粉碎、手術や懸命のリハビリを経て、今でも不自由な右手を補いながら農業に勤めています。また、名張市身体障害者互助会の副会長を努めるほか、障がいを持ちながらも地区の消防団長や防犯委員、農業委員など歴任され、その貢献は顕著であり、障がい者や家族の模範となり、障がい者の道標として活躍しています。

◆東海テレビひまわり賞

しみず けいじ
清水 系慈 名張市 内部

平成11年夏に心臓の僧帽弁狭窄症で倒れ、9時間にも及ぶ手術後、回復するにつれ、もう一度いただいた命とこれからの人生を考え、「継続は力なり」を信念に頑張っていきます。出来ることを一つでも多く実践していくことが大切だと障害者の代表として農福連携、市施策会議等に出席し福祉の向上に努め、障害者同志助け合い新会員の募集や仲間への声掛けなど積極的に社会に参画して活躍しています。

平成29年度 三重県障がい者芸術文化祭

～触れてみて 芸術文化の 明日の夢～

平成30年1月12日（金）、13日（土）NTNシティホール（桑名市民会館小ホール）に於いて、三重県障がい者芸術文化祭が開催された。障がいのある方が自身の能力を発揮し、作品展には、絵画176点、写真20点、書道51点、版画1点、陶芸11点、手芸58点、工芸19点、貼り絵・デザイン43点、合計379点。その他に共同作品21点、特別支援学校コーナー15校、ステージ発表20組があり、障がい者一人ひとりが、日頃の活動の成果を発表した。



ステージ発表



紙芝居と人形劇



三重県知事賞



絵画
七色の魔法と
天使のおくりもの



写真
夕陽に映えて



手芸
舞妓さん



書道
早春



陶芸
トラ



工芸
かいじゅうじてん



貼り絵・デザイン
タコミの日常

第63回三重県身体障害者福祉大会会長表彰

団体育成功労者

まんじゅう ともこ
満仲 知子（桑名市）

いちはな おさむ
岩花 修（いなべ市）

つじ ようじ
辻 洋治（四日市市）

かわ しげる
河 茂（伊賀市）

いなすみ あつし
稲住 敦（伊賀市）

たなか げんいち
田中 源一（名張市）

やました かずえ
山下 和江（松阪市）

かとう まり子
加登まり子（松阪市）

介護功労者

いのうえ じゅんこ
井上 順子（玉城町） 宮の里ミタスメモリアルホーム

奉仕活動功労者

つじ ちかこ
辻 千賀子（四日市市） 四日市失語症友の会

やまもと こと
山本みさ子（四日市市） 日本赤十字社三重県支部点訳奉仕団

ほり すみこ
堀 須美子（四日市市） 四日市録音奉仕の会

かみやま わかこ
神谷美和子（四日市市） 四日市録音奉仕の会

たかはし ちほ
高橋 千恵（鈴鹿市） 音訳グループ鈴の音

おか けいこ
岡 圭子（津市） 三重県声のポスト友の会

なかの まり
中野 真理（津市） 三重県点訳グループてんてん

はやし しげ子
林 しげ子（伊賀市） 上野市車いす友の会